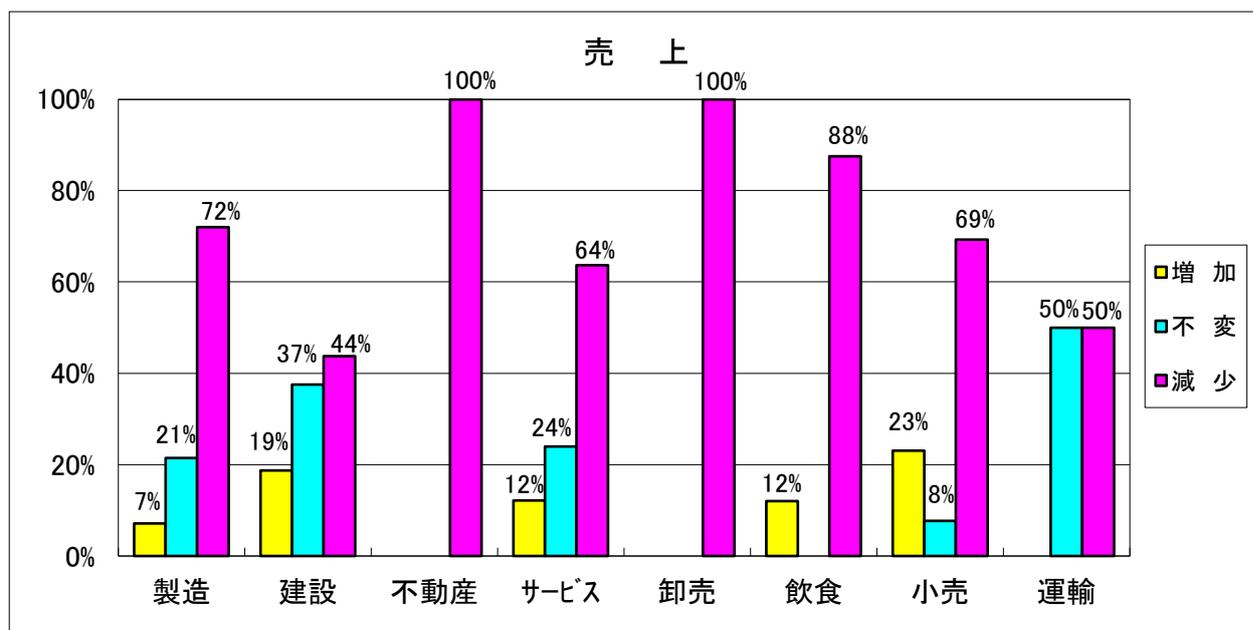


調査1 令和2年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と令和3年上期の見通しについて比較表示してある。

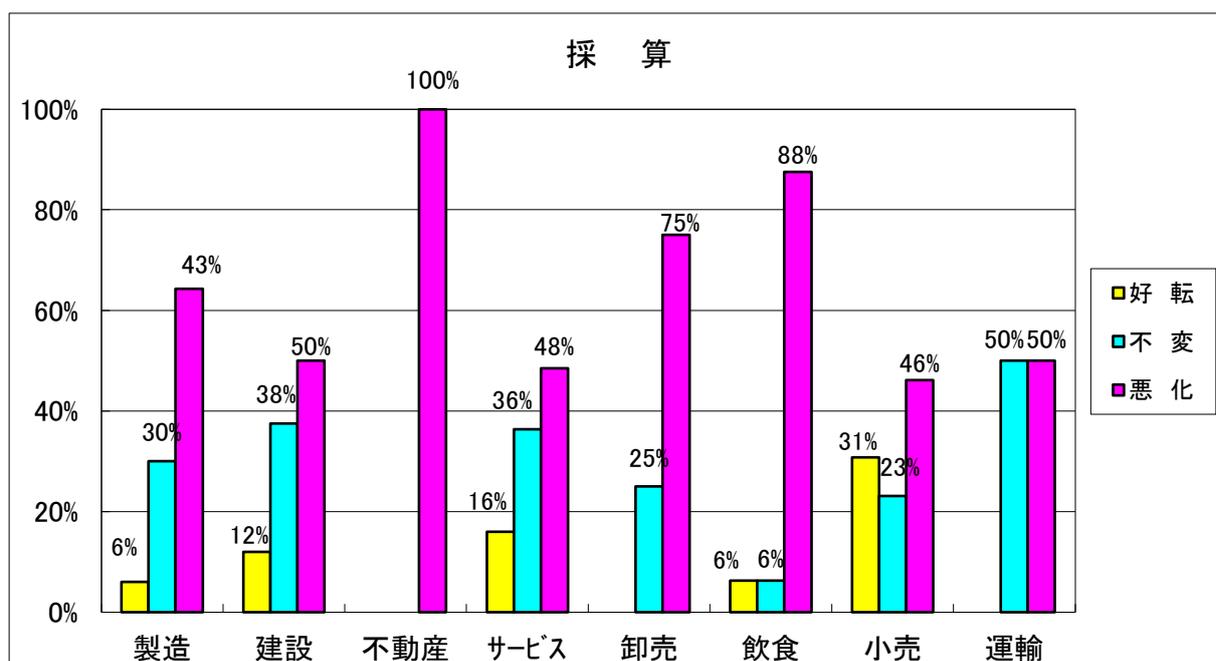
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が12%（前回8%）、「減少」は69%（前回70%）と、前回調査に比べると売上が若干増えているもののコロナ感染の影響は大きい。全業種の約7割の企業が売上「減少」と回答し、特に不動産、卸売業が全事業者が減少と回答している。



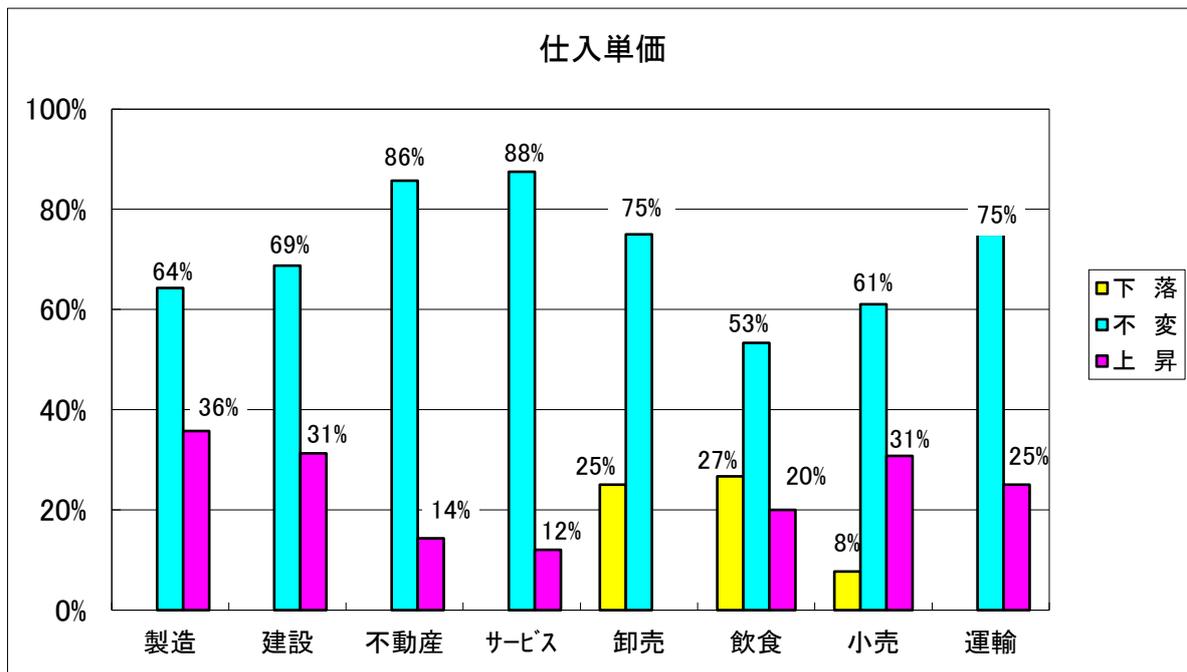
②採算について

全体でみると、「好転」12%（前回6%）、「不変」27%（前回30%）、「悪化」61%（前回64%）であった。業種では不動産業（100%）、飲食業（88%）、卸売業（75%）が「悪化」大きく、厳しい状況である。



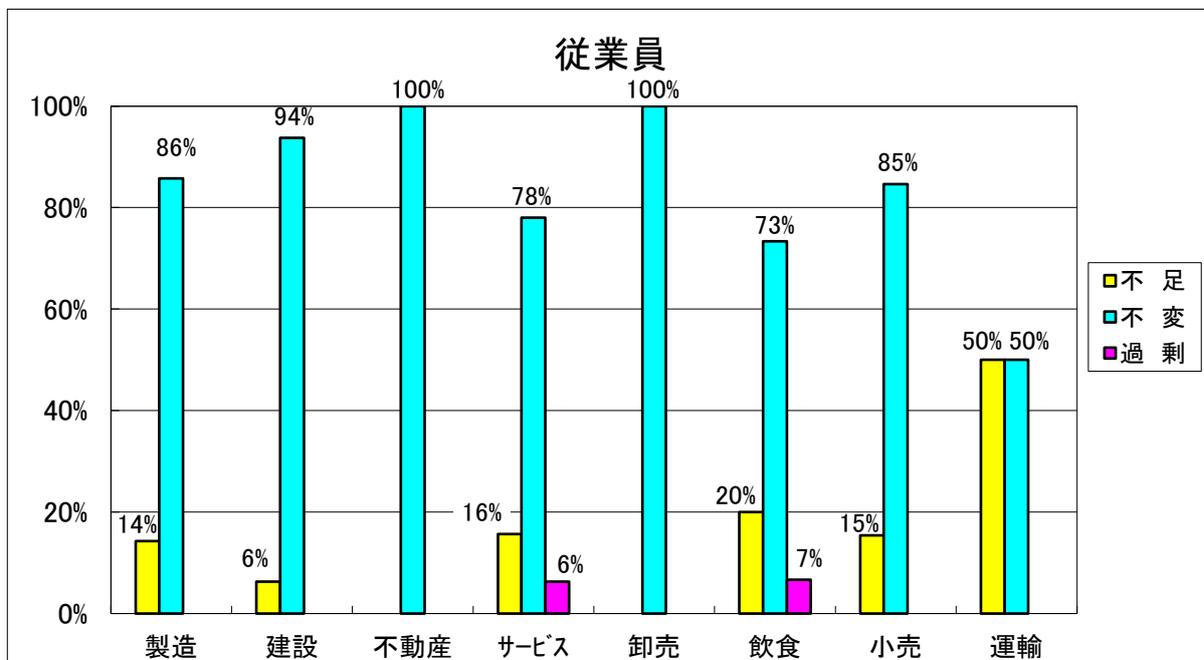
③仕入単価について

全体的には「不変」が72%「上昇」が22%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、製造業36%(前回50%)であった。「下落」が大きかったのは、飲食業27%(前回75%)であった。

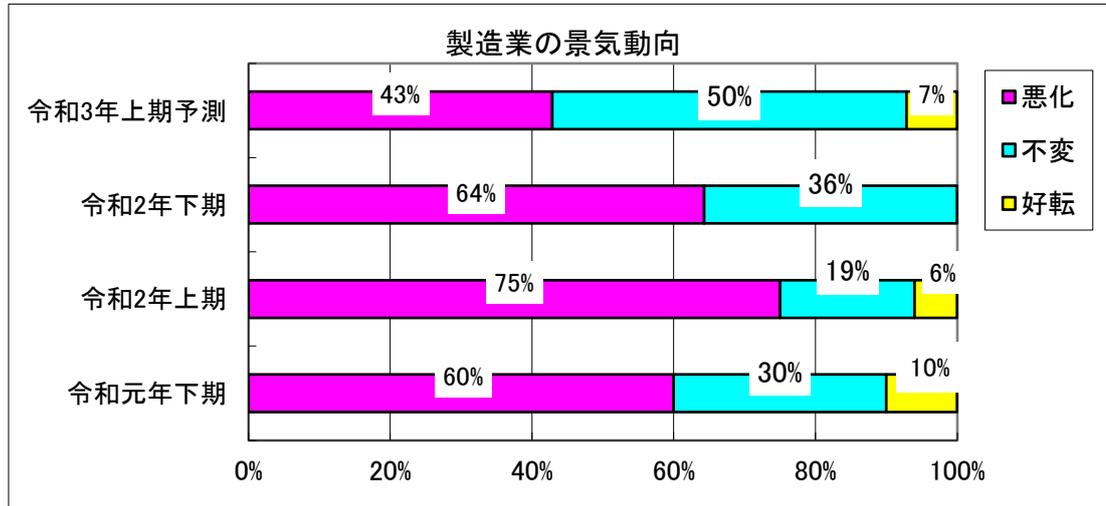


④従業員について

全体的にみると、企業の83%から「不変」と回答があった。そのような中、前回調査と同様に運輸業は変わらず不足の状況が続いている。若干ではあるが飲食業(7%)サービス業(6%)で「過剰」と回答している。

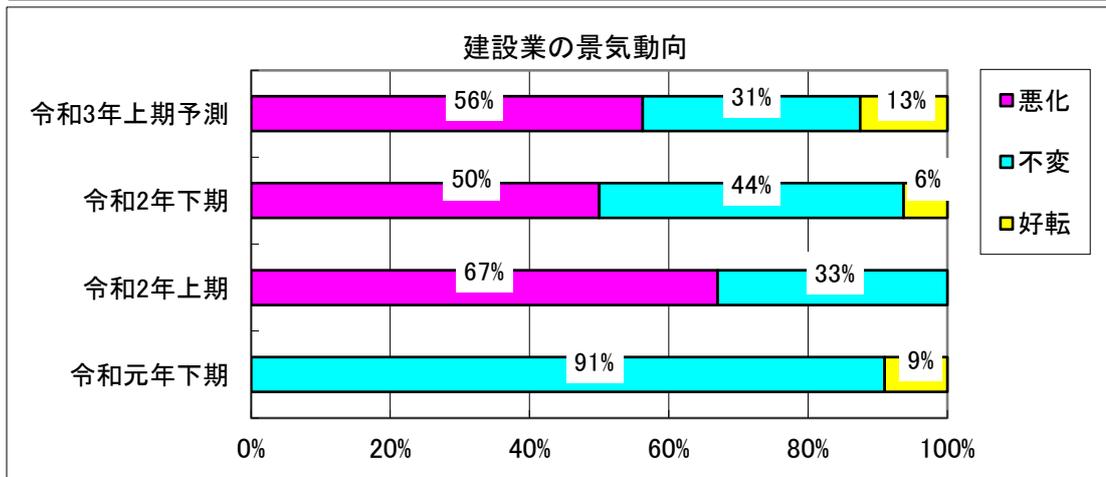


⑤業界の景気動向について



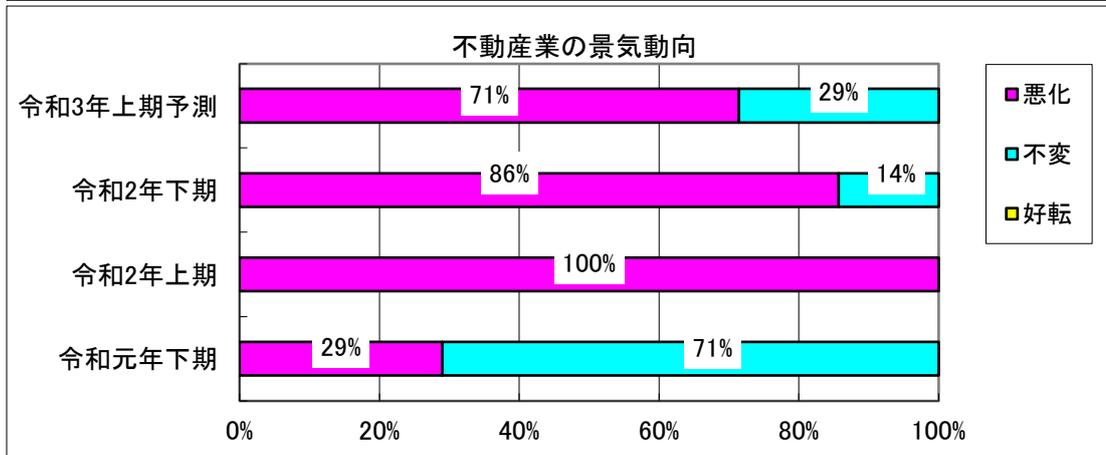
■製造業

令和2年下期では、一部「好転」があるもののコロナの影響で大きく「悪化」傾向になっている。上期よりは減少しているが全体の64%が「悪化」と回答した。令和3年上期の見通しは「好転」7%で引き続いて厳しい状況が予想される。



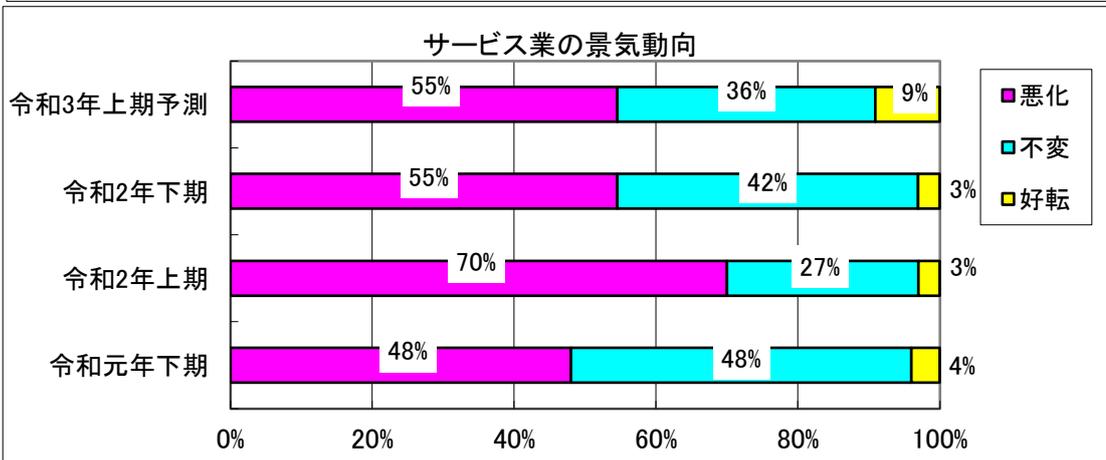
■建設業

令和2年下期は、「好転」6%あるものの、「悪化」が50%と半数の企業が回答した。令和3年上期では、一部で「好転」13%とあるが、「悪化」は56%との見通しで厳しい予測がでている。あまりよくない状況である。



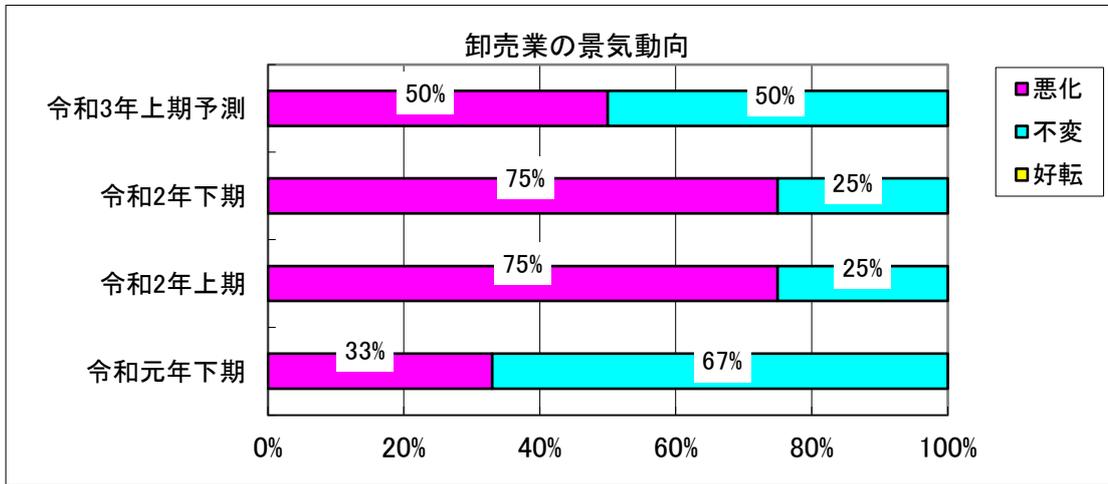
■不動産業

令和2年下期は、「好転」は無く、「悪化」が86%と厳しい状況である。令和3年上期も「好転」の見通しがなく、「悪化」が71%との見通しで厳しい状況が続く予測である。



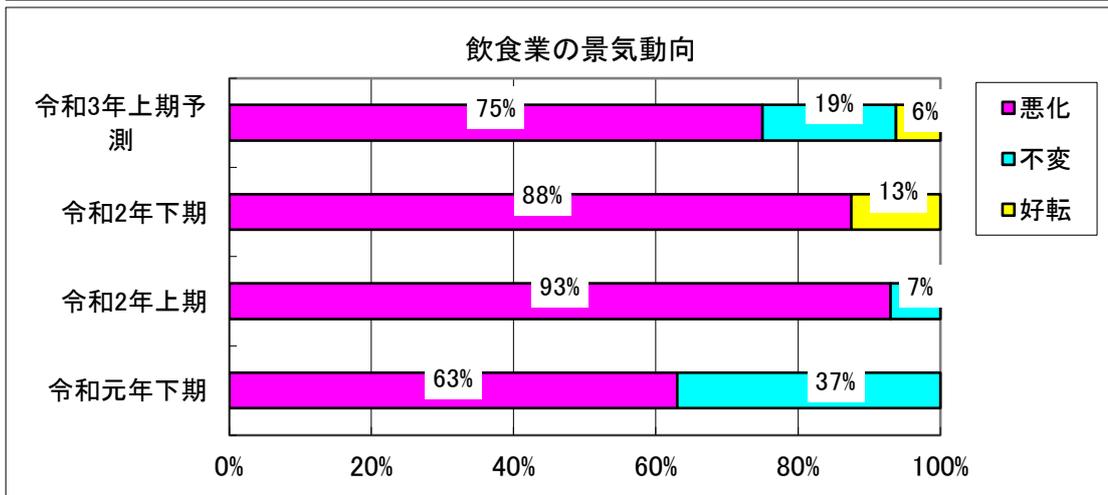
■サービス業

令和2年下期では、「好転」が3%、「悪化」が55%で厳しい状況であった。令和3年上期も「悪化」が55%と依然として厳しい状況である。



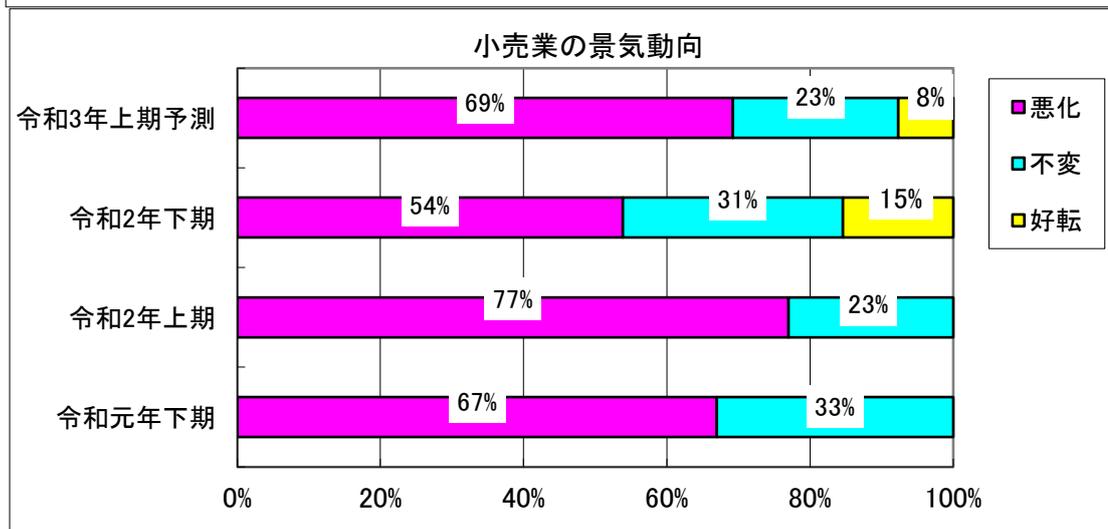
■卸売業

令和2年下期は「好転」がなく、「悪化」が75%、「不変」が25%と悪化している。令和3年上期では、「悪化」が50%、依然として厳しい見通しとなっている。



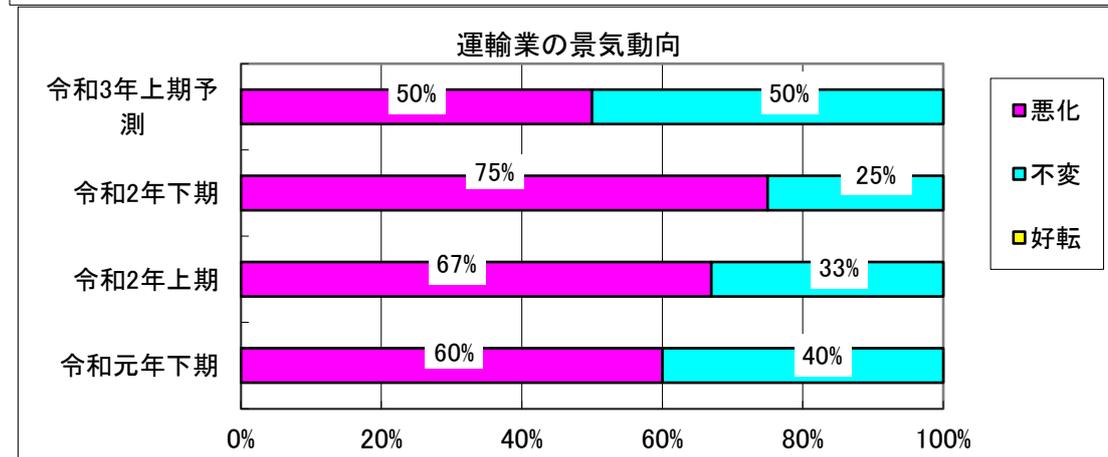
■飲食業

令和2年下期では「好転」13%でデリバリーサービスやテイクアウトの需要があった。一方で「悪化」が88%と上期と同様にコロナの影響で非常に悪化している。令和3年上期も悪化が75%と厳しい見通しとなっている。



■小売業

令和2年下期は、「好転」15%と上期よりは若干好転している。「悪化」は54%と未だ半数以上が回答している。令和3年上期の見通しは「悪化」が69%とかわらず厳しい見通しとなっている。

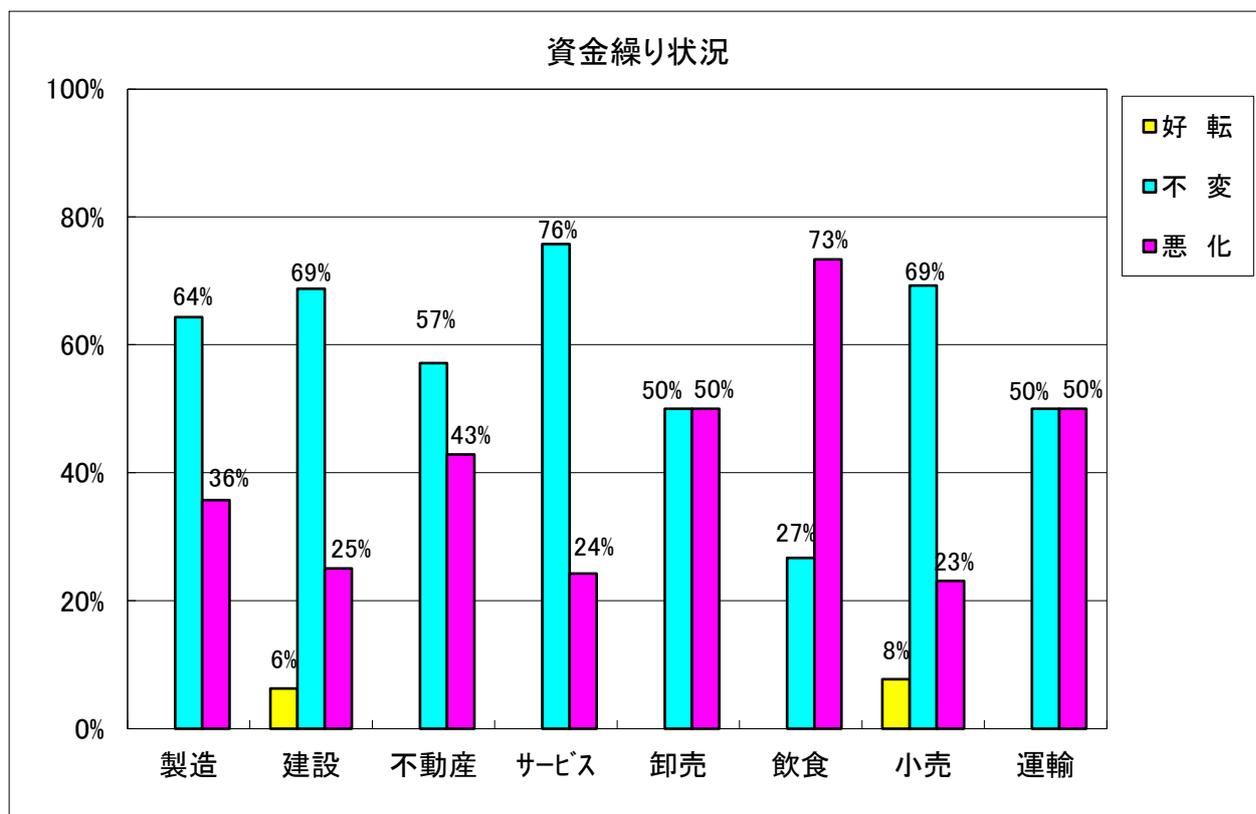


■運輸業

令和2年下期は、「好転」がなく「悪化」75%と景気の悪化傾向がみえる。令和3年上期も「悪化」50%「不変」が50%と厳しい見通しであった。

⑥資金繰りについて

全体でみるとコロナの影響により資金繰りが悪化傾向がみられた。「悪化」が36%（前回38%）、「不変」が62%（前回59%）、「好転」が2%（前回3%）と回答している。業種でみると飲食業73%・卸売業、運輸業で50%と悪化傾向が強くみられる。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が56%（前回52%）、「融資無し」が19%（前回17%）、「厳しい」が13%（前回9%）、「緩やか」が12%（前回22%）であった。コロナ関連の特別融資等により金融機関からの融資は増えている。

